

ふじみサラダボール子育て情報



「家庭から社会へ」
令和3年3月10日号
板橋富士見幼稚園



子ども同士の出会いは学びの場

子どもは成長と共に、親子から家族、そして親戚へと人の輪が広がり、やがて他者といわれる地域の子ども同士や園での仲間と、遊びや生活を通してつながりが広がっていきます。

幼児教育では、人が人として生き大成するために、人との小さな交わりから、次第に大きな社会に参加し、その中で様々な知識を獲得していきます。

今まで家庭という中で大切に育てられてきた子どもも、ある時期から自分の意に添わない出会いと葛藤しながら、一つ一つ自分の力で乗り越えていかななくてはなりません。この乗り越える経験には、家庭での愛情が大きな支えとなります。

家族に十分な愛情で支えられているという精神はとても重要で、小さな社会に一步踏み出す勇気となります。これは子どもが心置きなく親に依存できるという感覚です。だからと言って、甘やかしすぎたり溺愛しすぎたりすると、かえって自立に向かう時に不安感が大きくなり、一歩前に進む力がなかなか出ないことがあります。逆に、無理に自立を早めてしまうことで、他児との関係が保ちにくくなり、トラブルになってしまうこともあります。



では、どの程度の親子間の暮らしが理想なのでしょう。1つ目は、あまり過干渉にならないこと。子ども同士で解決できたことには干渉せず、見守ることが大切です。2つ目は、良いことと悪いことをはっきりと説明し、経験を積み上げていくこと。3つ目は、愛情や喜びを共にしっかり共有すること。これら3つの加減が大切となります。ただしその加減は、それぞれの大人の気質やパーソナリティーの違いにもよりますので、一概にこうすることが正しいということはありません。

時には家庭の中でも、我慢することや譲ることを経験させ、協調する感覚を身につけることも大切です。友達や仲間と遊びを楽しむ中では、意見が合わない出会いがあり、その度にそれぞれが我を通そうとして、いざこざや喧嘩に発展していきます。そうしたときに、気持ちを言葉で伝え合えることができるようになることが大きな成長につながり、次第に仲良く遊べるようになっていくのです。

いざこざや喧嘩の全くない遊びでは、逆に成長に結びつかないこともあります。成長とともに相手の気持ちに気づき、適度な「譲り合い」もある遊びを楽しんでほしいものです。